

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:今井 祥人

所属:神奈川県立相模原中央支援学校

記録日:2018年 2月 10日

キーワード:

【対象児の情報】

- ・学年 中学部 2年生
- ・障害名 肢体不自由障害
- ・障害と困難の内容

【身体の状況】

- ・車いすの自走はまっすぐのみできる。
- ・上肢に軽いマヒがあり、掴んだり離したりすることはできるが、力の調整が難しい。

【言語理解】

- ・内言語が多く、名詞はほとんど理解している。やりたいことをカードで選択して伝えることができる。
→教員から提示されると、絵カードやイラストカードを選択して伝えることができるが、自発的に伝える手段を獲得しておらず、やりたいことが沢山あるのにうまく伝えられず、ストレスを感じている。
- ・文字も2~4文字程度の固まりとして覚えている。特に給食のメニューは文字のみのカードでおかわりを伝えることができる。
- ・自分の思いを周りの人に正しく伝えることが難しい。

【注意喚起行動】

- ・手足を大きく動かしたり、近くにいる人の腕を引っ張ったりすることがある。特に一人で過ごしている時に見られる。

→伝えたいこと・呼びたい人がいるが、落ち着いて人を呼ぶ手段がなく、見通しを持つことが難しい。

【iPad に対する興味関心・操作性】

- ・1年生の時に好きなCMソングが聴ける教材(Keynoteのリンク機能)を使って休み時間を過ごしていたので、リンク機能について理解をしている。
- ・操作性については、アクセシビリティの設定とクリアファイルに穴を開けたものをiPadにクリップで固定したことで、1人で操作ができるようになった。



→車いすの机の上にiPadを置くと、操作している間に回転してしまい、ストレスを感じている様子が見受けられることがあった。



【活動目的】

- ・当初のねらい
- 自分の思いを冷静に、落ち着いて周りの人に伝える手段を身に付ける。
- 伝えれば大丈夫、困ったら呼べば大丈夫ということが理解できる。
- コミュニケーションに対する見通しをもつことで、不安定になってしまう場面を減らすことができる。

・実施期間

平成 29年 4月~平成 30年 2月

・実施者

今井 祥人

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- やりたいこと伝えたいことが沢山あるが、うまく伝えられずストレスを感じていた。
- 写真やイラストカード、文字カードで教員にやりたいことを伝えることができるが、教員からカードを提示された時のみ伝えることができるので、自発的に伝える経験は少ない。
- 落ち着いて冷静に伝える手段や見通しを持つことが難しい。
- 1人で過ごすことが苦手である。



・活動の具体的内容

- ① 落ち着いて過ごせる環境づくり。
- ② やりたいことを正しく伝えることができるツールの作成。
- ③ iPad を使い、学校と家庭の様子を共有する活動。

(1 学期の取り組み)

① 落ち着いて過ごせる環境づくり (5月)

「やりたいことコーナーの作成! ~教室環境を整えよ

基本の空間



iPad の操作のストレスを減らすためにアームで固定した。

かごの設置 (水筒や本など)



かごに入れることで、本人がやりたいと思った時に自分で取れるようにした。

ベルの設置



誰か来て欲しい時や困ったことがあった時に呼べるようにした。

行動の変化

- ・困ったことや教員と話したいときにベルを押すことができるようになった。
- ・一人でお茶を飲んだり、玩具で遊んだりするようになった。
- ・アームで iPad を固定したことで、ストレスなく CM ソングが聴けるようになった。

② やりたいことを正しく伝えることができるツールの作成。(5月~7月)

ステップ 1 「iPad を使って、遊びたい先生を伝えてみよう!」(5月)

○困り感



遊びたい先生が呼べず困っている。

○仮説



自発的に遊びたい教員を呼ぶことはまだ難しいので、まずはベルで教員を呼ぶ練習と iPad に映し出されている教員の写真を選択し、遊びたい教員を伝える練習を始めてみる。

○教材について



Keynote のリンク機能を使って、遊びたい教員を伝えることができる教材を作成した。



遊びたい教員を選択する。



いまい先生

「〇〇先生来てください。」と音声流れ、写真が表示される。

コミュニケーションの流れ

- ① 生徒 : ベルを鳴らす。
- ② 教員 A : 「誰か呼びたい人いる？」 iPad を提示する。
- ③ 生徒 : 画像を選択すると「B 先生来てください。」と音声と写真が流れる。
- ④ 教員 A : 「B 先生 A さんが呼んでいますよ。」
- ⑤ 教員 B : 「今行きます。」
- ⑥ 生徒 : 

行動の変化

ベルで教員を呼び、提示された iPad を使って、遊びたい教員を呼べるようになった。

ステップ 2 「遊びたい先生を自分で呼んでみよう！」(5 月下旬から 6 月)

○困り感



ベルで教員を呼び、来た先生に遊びたい先生を iPad で伝えることはできるが、自分で遊びたい先生を呼ぶことはできない。

○仮説



アームで固定されている iPad (CM ソングが聴ける教材が常に映し出されている) に遊びたい教員を呼べるページを追加することで、自分で iPad を操作して CM を聴いたり、先生を呼んだりできないだろうか？

○教材について

CM ソングが聴ける教材に、呼びたい教員のページに飛びリンクの追加を行った。



CM ソングが聴けるページに飛ぶ。



遊びたい教員を呼べるページに飛ぶ。

コミュニケーションの流れ（その1）

- ① 生徒：iPadの画面から教員を呼ぶリンクを選択し、呼びたい先生の画像を選ぶ。「〇〇先生来てください。」
- ② 教員：「はーい、今行きますね。」
- ③ 生徒：

コミュニケーションの流れ（その2）

- ① 生徒：iPadの画面から教員を呼ぶリンクを選択し、呼びたい先生の画像を選ぶ。「〇〇先生来てください。」
- ② 教員：「ごめんなさい、今手が離せないなので、いけないです。後で行きますね。」
- ③ 生徒：**ずっと〇〇先生を呼び続ける。** 

○手立て：「他の先生でもいいですか？」と言葉がけをし、周りを見て手が空いている先生を探すように促した。また、手が空いている教員を見つけたらその先生をiPadで呼ぶように伝えた。



（その2）行動の変化

周りを見て、手が空いている教員をiPadで呼ぶことができるようになった。

コミュニケーションの流れ（その3）

- ① 生徒：iPadの画面から教員を呼ぶリンクを選択し、呼びたい先生の画像を選ぶ。「〇〇先生来てください。」
- ② 教員：「ごめんなさい、今手が離せないなので、いけないです。後で行きますね。」
- ③ 生徒：**周りを確認し、全員の名前を呼んだが、来ることができなかった。** 

○手立て：「あとで、〇〇先生は必ず来てくれるから、CMソングを聴いたり、玩具で遊んだりして待つことはできますか？」と言葉がけをし、CMソングのリンクやかごの中の物に指をさして促した。



（その3）の行動の変化

CMソングのリンクに飛び、CMを聴きながら、お茶を飲み教員を待てるようになった。

全体の行動の変化

- iPadを使って、自分が呼びたいタイミングで教員を呼べるようになった。
- 呼んだ教員の手が空いていないときは、他の教員を呼べるようになった。
- 全員呼んでみて、手が相手いことが分ると、CMソングを聴いたり、お茶を飲んだりと自分で過ごし方を工夫するようになった。

ステップ3「散歩に行きたいことを伝えよう！～行きたいところは僕が決める～」(6月～7月)

○困り感



散歩に行きたいことや散歩中に行きたい場所を正確に伝えることが難しい。

○仮説



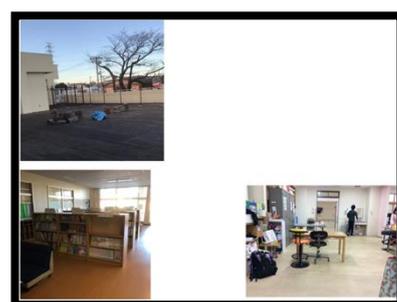
iPad を使って、好きな先生を呼んだり、CMソングを聴いたりして過ごせるようになったので、散歩の行きたいことを伝えるページと行き先を選択できるページを作成してみようと考えた。

○教材について

散歩に行きたいことを伝えるページと行きたい場所を選択できるページを追加した。



「先生散歩に行きたいです。」と音声
が流れ、イラストが表示される。



イラストをタップすると

- ・バルコニー
- ・図書室
- ・教室

の写真が出てきて、行きたい場所を選択して伝えることができる。

コミュニケーションの流れ

- ① 生徒：iPadの画面から散歩のリンクを選択する。「先生散歩に行きたいです。」と音声とイラストが出る。
- ② 教員：「はい、どこに行きたいですか？」と質問をする。
- ③ 生徒：行きたいところ（図書室）の写真を選択する。
- ④ 教員：では、図書室にいきましょう！
- ⑤ 生徒：



行動の変化



- ・朝の会の前の時間や給食を食べ終わったあとに、散歩に行きたいことを伝える場面が増えた。
- ・図書室に行き、本を選び終わると教室を選択し、帰りたいことを伝えたり、日によってはウッドデッキを選択したり、散歩を続けたいことを伝えられるようになった。
- ・教員が「今日はもう時間だから帰りましょう。」と言葉がけをすると、教室に行き先を変更することができるようになった。

ステップ4「トイレに行きたいことを伝えよう！」(7月)

○困り感



オムツが濡れて気持ち悪いが、伝えることが難しい。

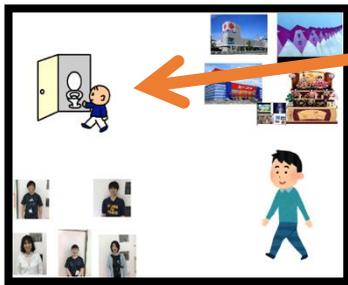


○仮説

iPad にトイレに行きたいことを伝えるリンクを追加することで、伝えることができるようにならないか？

○教材について

「トイレに行きたいです。」と音声が出るページを追加した。



「先生トイレに行きたいです。」と音声が流れ、イラストが表示される。

コミュニケーションの流れ

- ① 生徒：iPad の画面からトイレのリンクを選択する。「先生トイレに行きたいです。」と音声とイラストが流れる。
- ② 教員：「上手に伝えられましたね。すごい!!!」担任一同で喜び褒め称える。

行動の変化

- ・現在（2月）計5回ほど伝えることができた。

考察

- ・トイレのリンクのみ本人にとって楽しいことが起きるわけではないので、回数が伸びていないと考えられる。今後も自発的にトイレに行きたいことを伝えられたら、みんなで喜び褒め称えていきたい。

1 学期の成長と変化

- ・iPad を使用して、やりたいことを正確に伝えることができるようになった。
- ・以前よりも見通しをもって、落ち着いて一人でCMソングを聴いたり、お茶を飲んだりして過ごせるようになった。
- ・困ったことがあると、慌てることなく、落ち着いてベルやiPadで、教員を呼ぶことができるようになった。



iPad を使って、正確にやりたいことを伝えられるようになったので、今度は教室の外でも伝えられるように練習をしよう！



○手立てと環境設定

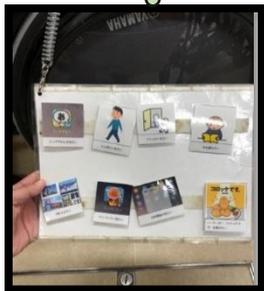
- ・車いすの机にアームを取り付けた。
- ・散歩中に行きたい所を伝える練習に取り組んだ。

問題点

廊下の真ん中で、CMソングを聴いてしまったり、アームを折ってしまったりと、集中力の低下、自走することが難しくなりました。

(2楽器の取り組み)

「教室外でも自分の思いを伝えられるツールの作成」(9月)



教材の説明

自走中に邪魔にならないツールを作成。

1. やりたいこと・伝えたいことを全てカードにした。
2. ストラップを付け、必要な時だけ、引っ張って取れるようにした。

ステップ5 「給食のおかわりを自分のタイミングで伝えよう！」

○困り感



提示されたカードを選択する経験はあるが、自発的にカードを選択して、やりたいことを伝える経験は少ない。

○仮説



大好きな給食のおかわりの場面からカードで伝える練習を始めることで、自発的にカードを取ることができるのではないかな？

コミュニケーションの流れ

- ① 生徒：お皿の中身が空になったのを確認する。
- ② 生徒：手すりに吊るされているボードを引っ張り上げ、カードを選択し、おかわりしたい物を伝える。
- ③ 教員：「はい、パンですね。」パンをお皿に盛る。
- ④ 生徒：



行動の変化

- ・おかわりを自分のタイミングで伝えることができるようになった。
- ・自発的にカードを取ることができるようになった。

ステップ6 「様々な場所でやりたいことを伝えてみよう！」(10月から11月)

○困り感

散歩中に次に行きたい場所や教室に帰ったら何をしたいか伝えることが難しい。



○仮説



散歩中に行きたい場所や教室に帰ったら何をしたいか質問をし、カードを取って伝える体験を積むことで、自分からやりたいことを伝えられるようになるのではないかな？

○手立て

- ・散歩中に、困っている表情や手足を大きく動かした際、「どこに行きたいですか?」「教室に帰ったら何をしたいですか?」など質問し、カードを指さす。
- ・徐々に言葉がけや指さしを減らし、自分でカードを取って伝えてくれるのを待つ。

散歩中にカードを使ったコミュニケーションの流れ

- ① 生徒：図書室で本を読み終わると、カードを取り、教員に渡す。
- ② 教員：「次はウッドデッキに行きますか?」
- ③ 生徒：「はい。」 



教室でカードを使ったコミュニケーションの流れ

- ① 生徒：ベルで教員を呼ぶ。
- ② 教員：「どうしましたか?」
- ③ 生徒：カードを取り、教員に渡す。
- ④ 教員：「アンパンマンのアプリにかえてほしいですね。」
- ⑤ 生徒：「はい。」 
- ⑥ 教員：アプリをかえる。



行動の変化

- ・ウッドデッキ、図書室など様々な場面でカードを使って自分のやりたいことを周りの人に伝えることができるようになった。
- ・教室でもカードを使って、やりたいことを伝えるようになった。

2学期の成長と変化

- ・カードを使用して、やりたいことを自発的に伝えることができるようになった。
- ・教室、教室外でもカードを使って、コミュニケーションが取れるようになった。

③ iPad を使い、学校と家庭の様子を共有する活動。

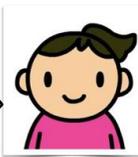
「iPad のカメラ機能を使って、学校と家庭の様子を共有」(7月)



iPad のカメラ機能を使い、写真や動画を学校で撮り、家庭に持ち帰り見てもらう。同様に家庭での様子を撮ってもらい、学校で見る活動を行った。

○保護者の感想

家でも CM 教材を使って
みたいです。 



1人で落ち着いて過ごして
いてすごい!

やりたいことが伝わって
嬉しそうですね。

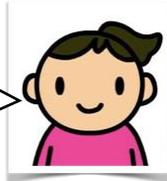
「家庭訪問を行い、教材の使い方などの伝達」(8月)



- iPad を使う際は、座位保持椅子に座った方が操作しやすいことを確認した。
- iPad に穴の空いたクリアファイルをつけることを確認した。

○9月の日誌の内容

家で A が好きそうなアプリを入れてみたら、アンパンマンのアプリなどが好きですよ。



iPadmini だと画面が小さいので、本人用の iPad を買いました。



「家庭でもやりたいことをカードで伝えよう！」(10月)

○困り感



好きなアプリが増えたが、何をやりたいのか伝えることが難しい。

○仮説

保護者から教えてもらったアプリのカードを作成し、学校でもカードを使って、アプリを切り替えたいことを伝える練習に取り組むことにより、家庭でもやりたいアプリをカードで伝えることができるようになるのではないか？

コミュニケーションの流れ

- ① 母：「次は何のアプリをやりたい？」
- ② A：カードを選択し、保護者に渡す。
- ③ 母「アンパンマンのアプリね。今準備するね。」
- ④ A：😊



家庭での変化 😊

- 家庭用の iPad の購入によって、本人の好きなアプリが増え、好きなことが増えた。
- アプリカードを作成したことで、家でもやりたいことを正しく伝えられるようになった。

- ・対象児の事後の変化
- 学校での変化

教室内的での変化

- ・iPad を使用して、遊びたい教員を呼んだり、散歩に行きたいことを伝えられたりできるようになった。カードを使って、遊びたいアプリ切り替えてほしいことも伝えられるようになった。
- ・以前よりも見通しをもって、落ち着いて1人でCMを聴いたり、お茶を飲んだり、玩具で遊ぶようになった。また、CMを聴きながら、呼んだ教員を待つこともできるようになった。
- ・困ったらことがあると、慌てることなく落ち着いてベルやiPadで、教員を呼ぶことができるようになった。



教室外での変化

- ・様々な場所で自分のやりたいことをカードで伝えられるようになった。
- ・担任以外の教員にもカードでやりたいことを伝えることができるようになった。

家庭での変化

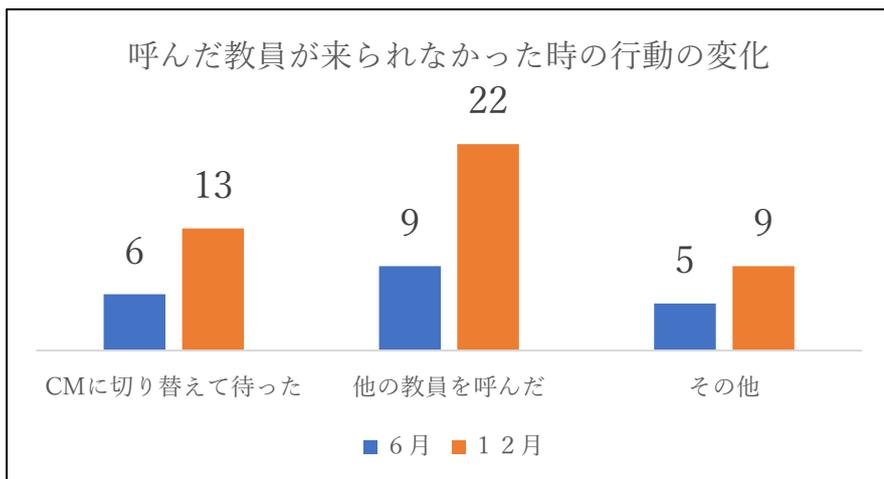
- ・iPadの動画や写真の日誌を通じて、やりたいことが伝わって嬉しそうですね。1人で落ち着いて過ごしていてすごい。などの感想を頂いた。
- ・家庭用のiPadの購入によって、本人の好きなアプリが増え、余暇が充実した。
- ・アプリカードを作成したことで、家でもやりたいことを正しく伝えられるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

- ・主観的気づき
- 気づき①

「iPadを使って教員を呼んだ際、呼んだ教員の手がいておらず、来れなかった時に周りの様子を確認し、手が空いている教員を呼んだり、CMソングを聴いて待ったりすることができるようになった。」

エビデンス①「呼んだ教員が来られなかった時の行動の変化」



行動の変化(1)

- ・CMを聴いて待つことが増えた。

考察

CMを聴いて待つことが出来るようになったのは、iPadを使って、教員を呼ぶことで、「〇〇が終わったら行くね。」などの返事が来るようになったことにより、見通しを持つことが出来るようになったからと考えられる。

行動の変化（2）

- 他の教員を呼ぶことが増えた。



① iPadで教員を呼ぶ。



② 手が空いている教員を探す。



③ 手が空いている教員をiPadで呼ぶ。

気づき②

「写真カードが移動中の一番のコミュニケーションツールになってきた。」

エビデンス②

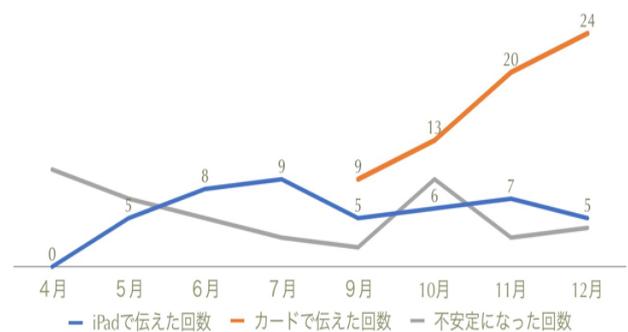
「グラフ①カードを使った場面について」

「グラフ② iPadとカードで伝えた回数の比較」

カードを使った場面の变化



iPadとカードで伝えた回数の比較



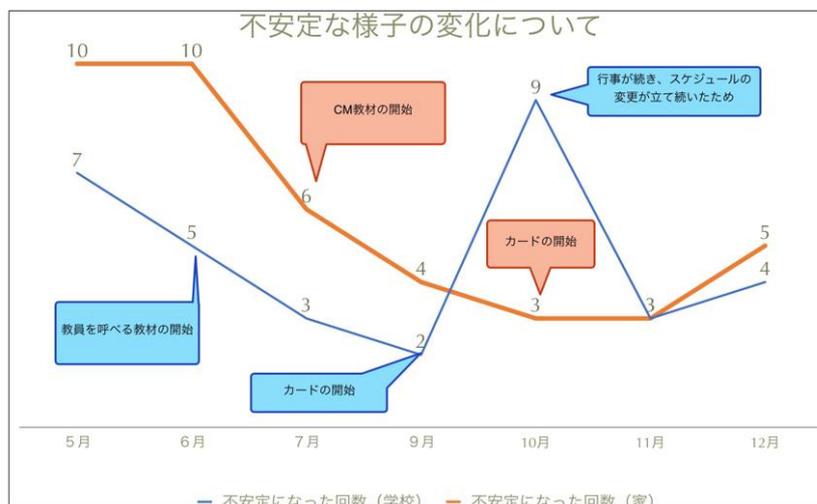
グラフ①②より

- カードを渡す場面が増えた。また、教室でもカードを渡すようになった。
- iPadで伝える回数よりもカードで伝える回数の方が多くなった。

気づき③

「学校や家庭で、iPadや写真カードを使うことにより、自分の思いが伝わったという実感を持ち、その結果不安定になった回数が減ってきたと考えられる。」

エビデンス③「不安定な様子の変化について」



グラフより

- ・学校では、6月より教員を呼べる教材の導入を始めたことで、不安定になった回数が減ってきた。また9月からカードで伝える学習を始めたことで、さらに安定して過ごせるようになった。
- ・家庭では、7月よりCM教材を持ち帰り始めたことで、不安定になった回数が徐々に減少していき、10月には家庭でもカードでやりたいアプリを伝える学習に取り組み始めたことで、安定して過ごせるようになってきている。

【今後の見通し】（3月に転校が決まった）

- 転校先でも、自分の思いを周りの人に伝える事ができる。
- 積み重ねてきたことを引き継げるように（本人の思いを引き出せる環境設定等）支援する。



BookCreator を使った引き継ぎ

- ・やりたいことコーナーなどの環境の設定方法などを写真や動画を使って、一冊の本にする。
- ・トイレなどの介助方法（協力動作を引き出す）の動画を入れた本を作成する。